



平成23年度

野口遵研究助成金の募集



公益財団法人 野口研究所

平成23年度 野口遵研究助成金応募要項

1.

助成の趣旨

独創的かつ新しい産業振興に繋がるポテンシャルを持つ基礎的研究を行っている若手研究者を助成します。

*個人の独立した研究を重視いたします。

2.

応募課題

課題1 ▶ 生物機能を活用した新材料やデバイスに関する研究

課題2 ▶ 創エネルギー、蓄エネルギーに関する新材料やデバイスの研究

課題3 ▶ 省エネルギーに関する新材料やデバイスの研究

課題4 ▶ 高効率分離に関する新材料やプロセスの研究

課題5 ▶ バイオ生産プロセスに関する研究

課題6 ▶ 高効率反応触媒に関する研究

なお、課題1から課題6に関連した解析・評価・シミュレーションなどは該当する課題に応募して下さい。

3.

応募要件

- 1) 国内の大学またはこれに準ずる研究機関に常勤する研究者。
- 2) 39歳以下(昭和46年11月1日以降に出生)の若手研究者。
- 3) 応募に当たり所属長の推薦が必要です。

4.

研究助成金額

1件につき原則220万円を贈呈し、用途は限定しない。採択件数は10~15件。
研究助成金は、大学等所属研究機関へ奨学寄附金として支払われます。

5.

応募期間

平成23年9月1日~平成23年10月31日(必着)

6. 応募手続

- 1) 研究助成を希望する者は、野口研究所ホームページから提出書類の書式をダウンロードして下さい。
- 2) 上記2に記載する応募課題のうちから1つを選び研究助成金申請書を作成した後、所属長の推薦を受けて下さい。
- 3) 申請書および添付書類は電子ファイル(PDFファイル)にして野口研究所のホームページからアップロードし、同時に研究助成金係までE-mailで送信して下さい。

提出書類

- 1) 研究助成金申請書
- 2) 添付書類
 - a) 本研究分野の研究状況および申請者のこれまでの研究経緯、成果等
 - b) 本研究の目的および要旨
 - c) 研究計画の概要(図表なども含め2枚以内)
 - d) 申請者の学歴および職歴
 - e) 申請者の研究業績
 - f) 代表的な論文1報(審査参考論文)

7. 選考方法

有識者を中心とする選考委員会で選考します。

8. 助成金の贈呈時期

平成24年3月に東京都内で贈呈式を予定しています。

9. 助成による成果の報告および発表

- 1) 平成25年12月31日までに研究成果報告書(A4で4枚以内、様式は自由)を提出いただきます。
- 2) 研究成果報告書は野口研究所の刊行物、ホームページ等で一般に公開されることがあります。なお、成果の知的財産権について野口研究所は関与いたしません。
- 3) 助成後、成果報告会の実施を予定しています。

10. その他

- 1) 応募された個人情報には法令に則り適切に取り扱います。なお、受賞者の氏名、所属(職位を含む)、研究テーマ名は原則公開とします。
- 2) 採否決定理由に関する問い合わせには応じられません。
- 3) 推薦者の欄は推薦所属長の署名または公印をお願いします。
(所属長は学部長、研究科長などの相当職)

11. 研究助成金申請書送付先および問い合わせ先

〒173-0003 東京都板橋区加賀1丁目8番1号

公益財団法人 野口研究所 研究助成金係

tel 03-3961-3255 e-mail josei@noguchi.or.jp

HP <http://www.noguchi.or.jp/>

創設者 野口遵について

略 歴



- 明治 6年 (1873) 7月26日金沢市で生まれる。
- 明治29年 (1896) 東京帝国大学電気工学科を卒業。郡山電燈の技師長として赴任。
- 明治31年 (1898) シーメンスの東京支社に入社。この間カーバイドの研究を続ける。
- 明治36年 (1903) 三居沢(仙台市)で我が国最初のカーバイドを生産。
- 明治39年 (1906) 曾木電気を創立。鹿児島県の曾木滝を利用して水力発電を起こす。
- 明治41年 (1908) 日本カーバイド商會を設立し水俣に工場を建設。
曾木電気、日本カーバイド商會を合併して社名を日本窒素肥料(現JNC株式会社)と改称し、石灰窒素、硫酸の製造を開始。
- 大正10年 (1921) カザレー(伊)のアンモニア合成の特許を買取して延岡に世界最初のカザレー式アンモニア合成工場を建設。
- 大正11年 (1922) 旭絹織を設立。
- 大正12年 (1923) 延岡工場を新設、硫酸を生産。
- 大正13年 (1924) 朝鮮への進出を決定。
- 大正14年 (1925) 北朝鮮赴戦江で水力発電の開発(20kW)に着手。
続いて長津江(33kW)、虚川江(34kW)を完成、鴨緑江本流には水豊発電所(70kW)を建設。
- 昭和 4年 (1929) ドイツ・ベンベルグ人絹の特許をもとに日本ベンベルグ絹絲(現旭化成)を設立。
- 昭和16年 (1941) 全財産3,000万円を寄付し、2,500万円で野口研究所を設立。500万円を朝鮮奨学会に寄付。
- 昭和17年 (1942) 勲一等瑞宝章を受章。
- 昭和19年 (1944) 1月15日逝去。享年72歳。

野口研究所とは？

公益財団法人 野口研究所は1941年に、旧日窒コンツェルンの創始者故野口遵氏が全私財を投げうって設立した、70年の歴史をもつ研究所です。設立趣旨は「化学工業の振興を期するため、諸般の研究並びに調査を行うとともに広く重要な研究に対し援助をなし、なお研究者の養成、発明・考案の工業化にも力を注ぐ…」となっております。この設立趣旨にそって化学工業の発展に資する基礎的研究と人材育成を目的に研究を進めています。現在は糖鎖バイオロジーとグリーンケミストリー触媒の2分野をターゲットとした研究を行っております。

野口研究所の歩み

- 昭和16年 (1941) 日本窒素肥料株式会社社長 野口遵が、私財2,500万円を拠出して創設。
文部大臣より民法第34条に基づき財団法人設立の許可を受ける。
設立年月日 昭和16年2月10日。
研究所を横浜、延岡、興南に開設。
- 昭和21年 (1946) 各研究所を東京板橋(現在地)に移転。
- 昭和23年 (1948) 維持会制度を設ける。
調査部を東京神田に新設(主として水力資源と森林資源の活用に関する調査を行い昭和30年まで継続)。
- 昭和31年 (1956) 基本財産拡充のため募金(83社より約3億円の賛助を受ける)。
- 昭和37年 (1962) 野口情報センターを開設。
- 昭和44年 (1969) 同情報センターを調査部として発展改組。
- 昭和60年 (1985) 投資有価証券のうち株式を処分し、国債・地方債・金融債・貸付信託等に転換、基本財産および通常財産の拡充を図る。
- 平成 3年 (1991) 創立50周年。
- 平成 6年 (1994) 調査部を廃止し、調査事業を縮小。
- 平成13年 (2001) 創立60周年。
- 平成22年 (2010) 公益法人に移行し、11月1日付で「公益財団法人野口研究所」に名称変更。
- 平成23年 (2011) 創立70周年。

お問い合わせは
こちらまで

〒173-0003 東京都板橋区加賀1丁目8番1号
公益財団法人 野口研究所 研究助成金係

tel 03-3961-3255 e-mail josei@noguchi.or.jp